

# 女性医師が働きやすい環境づくりのためのアンケート結果について

## 1 アンケート実施内容

- (1) 実施期間 平成30年3月15日(木)～3月29日(木)
- (2) 対象者 臨床系女性医師：153名(産休・病欠のため回答不可：10名含む。)
- (3) 回答者 92名
- (4) 回答率 60.1%(実回答率：64.3%)
- (5) 実施方法 アンケート用紙に直接記入(任意・無記名式)

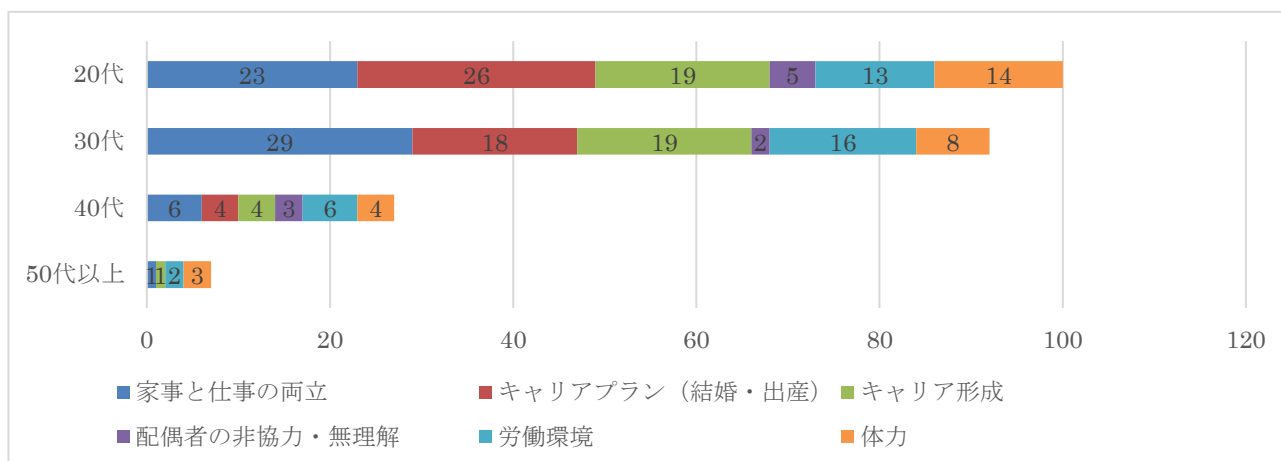
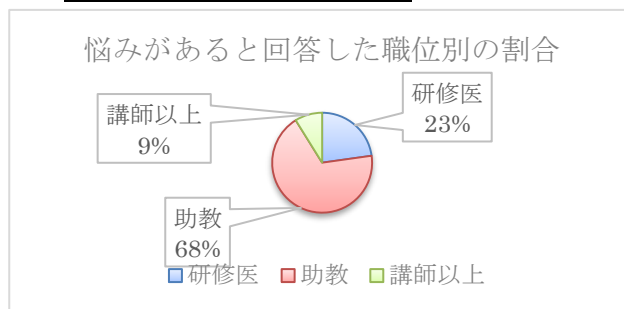
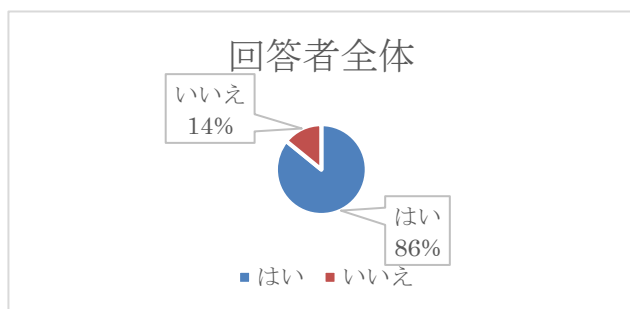
## 2 アンケート結果(総論)

今回のアンケートでは、本院に働く臨床系女性医師(全153名)を対象に実施した結果、幅広い年代・職位の92名の医師から回答を得ました。

アンケート結果から、20・30代の若手医師の多くにキャリアプラン(結婚・出産)やキャリア形成に関する不安や悩みを抱えていることが分かりました。また、育児中の回答者の多くが、育児をしながらの勤務に困難を感じており、子供の体調不良や学校行事等でやむを得ず欠勤することなどに肩身の狭さなどを感じているケースも見受けられました。

また、職場の理解が十分に得られないというような意見も散見され、医局の体制や男女比などが大きく影響していると推測されるため、女性医師に限らず、男性医師にも育休や短時間勤務の取得を推奨する制度を検討する必要があると考えられます。

〈参考〉女性医師としての悩みや不安はありますか? はい 79名/いいえ 13名



### 3 アンケート結果（各論）

#### (1) 回答者について

アンケート対象者 153 名のうち産休や病欠者（10 名）を除くと、回収率は約 65%（92 名）の結果となりました。

回答者の年代は、20・30 代が 76%と大半を占めており、職位としては、研修医が回収率 100%に対し、アンケート対象者の約 80%を占める助教（医員助教を含む）（以下「助教」という。）の回収率は、51.2%（60 名／117 名）と低い結果であったため、原因の検討が必要だと考えられます。

#### (2) 女性医師としての悩みや不安

全体の 86%から「女性医師としての悩みや不安がある」と回答があり、世代・職位を含め、20・30 代の若手医師の 9 割以上が悩みや不安を抱えているという結果になりました。

若手医師の「悩みや不安」の要因としては、「家事と仕事の両立」・「キャリアプラン（結婚・出産）」・「キャリア形成」の 3 項目が約 70%を占めています。一方、40 代以上の医師についても、若手医師と比較すると少数ではありますが、悩みの要因が複数挙げられています。

#### (3) 休職・離職を考慮し得る状況

休職・離職を考慮し得る状況として、回答項目の多い順に「子育て」・「出産」・「配偶者の転勤」・「自身の病気」が挙げられ、配偶者の転勤や自身・家族の病気などの不確定要素を除くと、「出産・育児」を機に休職や離職を考慮する傾向が見られました。

また、回答者全体の 54%は既婚者で、全体の 43%は子供がいる（うち 2%は妊娠中）と回答があり、それぞれ 30 代が最も高い数字になっています。（30 代既婚率：70%/子供がいる：62%）

#### (4) 育児をしながらの勤務に困難を感じるか

全体の 92%から「育児をしながらの勤務に困難を感じたことがある」と回答がありました。

その中でも、「子供の体調不良」が大部を占めており、続いて、「自身の体調不良」、「職場の過重な労働環境」が挙げられました。また、「学校行事などで休まなくてはいけない」という意見も複数ありました。

また、子供が病気になった場合の対処としては、「自分が仕事を休む」が最も多く、続いて、「自分の両親・親族に預ける」や「配偶者が仕事を休む」の選択が多く、自分が休めない場合は、近親者の協力が欠かせないことが窺われました。

一方、「休職や離職を考慮するタイミングに子供の年齢が関係している」との回答が 81%に上り、回答者の大半が小学校入学（6 才）までに休職や離職を考慮するタイミングがあるとの結果になりました。

#### (5) 特別短時間勤務について

特別短時間勤務制度については、全体の64%が「知っている」と回答がありましたが、世代別で見ると、30代の認知度は85%である一方、20代の認知度は45%と低いため、身近で利用している人がいない場合や、制度利用を検討する状況にならなければ関心が低いことが考えられます。

また、制度の利用状況としては、全体の19%が「制度を利用した」と回答があり、制度を利用して良かったこととしては「仕事と家庭の両立がしやすくなった」、「子供の様子が把握しやすくなった」が挙げられる一方で、「任された仕事を時間内にこなさきれない場合があった」、「他の人より早い時刻に帰宅することに肩身の狭い思いをした」など不自由を感じているという意見も挙げられ、中には「時短の時間に帰れない」という意見もありました。

一方、制度を利用しなかった理由としては、未婚や子供がいないなどの理由を除くと「任せられた仕事を時間内にこなさきれそうもないから」や「患者への対応が不十分になったから」などが挙げられ、「医局の理解とサポートがあったので制度を利用する必要がなかった」や「時短制度があることを知らなかった」などの意見もありました。

#### (6) アイキッズハウスについて

アイキッズハウスについては、全体の81%が「知っている」と回答があり、世代別で見ても20～40代まで広く認知されていることが分かりました。

また、施設の利用状況としては、全体の25%が「アイキッズハウスを利用した」と回答があり、利用した理由として「職場から近いから」が大部を占めており、中には「市立の保育園は待機児童になり入園が難しい」、「希望していたところに入れなかった」などの意見もありました。

一方、利用しなかった理由としては、「自宅近くの保育園に入れた」や「家族のサポートがあるため不要」などが挙げられ、希望の保育園等に預けることができなかった場合に利用されている傾向が高いことが分かりました。

#### (7) 女性医師が勤務を継続できるような環境整備にあると良いと思うもの

環境整備の内容としては、「病児保育施設」、「敷地内の学童施設」の回答が多数あり、施設を利用する際に大切な選択基準としては、「柔軟なスケジュール変更」、「清潔さ」、「スタッフの質や対応」を求めていることが分かりました。

また、その他の意見としては、「フレックス制度」、「24時間保育」、「ベビーシッターの助成制度」など、新しい制度の導入を要望するものの他、男性医師にも時短・育休の取得を推奨することで理解を促し、女性医師が時短や育休を取得しやすい環境にしてほしいとの意見もありました。